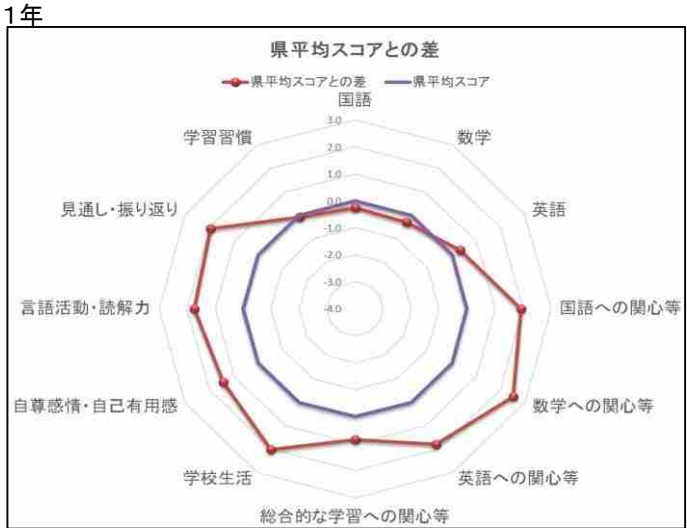


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立本庄中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○記述式問題での無答は0だった。作文学習に繰り返し取り組んだ成果だと考える。 ●言語分野での正答率が低かったため、全体の正答率が下がっている。とくに「言葉の単位」の理解が不十分であった。	引き続き、自分の考えや必要な内容を、与えられた条件に沿って記述する学習活動を多用し、書くことを通して読解力・語彙力をつける。また、既習の言語事項の復習を授業の中などで繰り返し行うことで理解の定着を図る。
	数学	○数学に対する関心意欲は非常に高い。 ○三角形の展開図から体積を求めることや不等式については県平均より高い。 ●指数の計算、一次式の加法・分数の減法、柱状グラフの読み取り、具体的な場面での文字式の読み取りは県平均より低い。	教科書を使って記述を読み合う指導をしたり、章末の問題で、わからなかった問題について、「はじめて聞く人にもわかるように説明しよう」というテーマのレポートを書かせたりした。「言葉」に向き合うことに対して興味関心をもつ生徒も多く、数学を好きな生徒が入学時より増えている。今後は、上の2つに併せて定着を図る取り組みをしていく。
	英語	○基本的な単語力や単文の読み取りの力を使って、表やグラフを見ながらの問いかけや、単文レベルの問題に対する正解率が高かった。日々の学習の成果だと考える。 ●少し長い文を読んで概要を捉えることが難しく、応用的な問題に対する正解率が低い。 ●対話文の中にふさわしい文を作ることが難しかった。	引き続き基本的な単語力や文法の指導を行う。文法を理解して、文を読んだり文を作ったりする日々の練習を大切にする。他方、少し長い英文を読んで内容を大きく捉えたり、会話として英語を使ったり、応用的に問題に取り組みさせる機会も与えていく。
2年	国語	○記述式問題での無答は0だった。考えたことを書く学習に返し取り組んだ成果だと考える。 ●複数の事項や条件を満たして自分の意見をまとめる力が弱い。順序だてて考えを記述する学習が必要だと考える。	的確な語句を選び、順序だてて必要な情報や考えを伝える力をつけるために、様々な資料や幅広い題材を取り入れた授業に引き続き取り組む。どんな工夫をして記述したかを振り返る学習を丁寧に行い、的確に表現する力を伸ばす。
	数学	○数学に対する関心意欲は非常に高い。 ○連立方程式を解くことや度数分布表から相対度数を求めたりすることなどは県平均より高い。 ●分数を含む一次式の減法や一次関数の内容、三角柱のねじれの位置や展開図を組み立てて考えることが県平均より低い。	教科書を使って記述を読み合う指導や、章末の問題で、わからなかった問題について、「はじめて聞く人にもわかるように説明しよう」というテーマのレポートを書かせたりした。「言葉」に向き合うことに対して興味関心をもつ生徒も多く、数学が好きで、授業中だけでなく、休み時間も数学に向き合う生徒が多い。今後は、上の2つに併せて定着を図る取り組みをしていく。
	英語	○基本的な単語力や単文レベルを読み取る力があり、表やグラフを使った問題にも対応できている生徒が多い。 ●少し長い会話文や説明文の概要を求める問題など、応用的な問いかけに対する解答率が低い。 ●対話文の中に当てはまる文を書くことが難しかった。	引き続き、基本的な単語力や文法の力を使って単文を作る力をつける。さらに自分の経験や考えを英語である程度の長さの英文で表す学習活動をできるだけ多く取り入れる。また長い英文を読んで、概要を大きく捉えるような応用的な問題にも取り組ませる。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

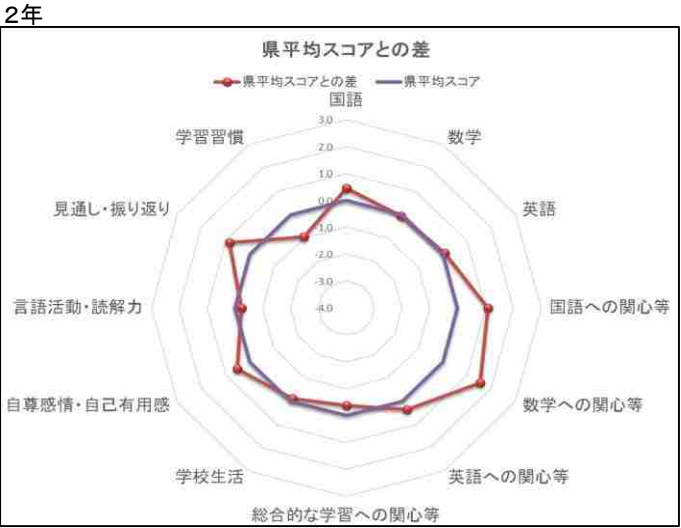


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	63	32	70
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 14 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	73	39	58
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 15 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○教科の学習が好きであり、方法を得て理解を深めようとしたり、わかる喜びを感じる回答の割合が多く、学習そのものへの意欲がある。 ○授業の「めあて」の提示と「ふりかえり」の実施について、肯定的回答の割合が高く、生徒の意識に定着している。	・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などで、「ねらい」「ふりかえり」を明示した取組を継続する。 ・授業の最後や単元の「ふりかえり」が充実するよう、学び合い活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えを発表する取組を継続し、理解を深めていく。
	家庭学習に関わる事項	○平日の家庭学習1時間以上の生徒の割合が高い。家庭学習の内容指示や宿題へのコメントを丁寧に行っている成果であると考ええる。 ○学習計画を自分で立て、復習に取り組むことについて、肯定的回答の割合が高く、時間を計画的に使う意欲がある。 ●平日の携帯電話の使用時間やメディアの接触が1時間未満の生徒が少ない。複数でできるゲームやSNSの普及もあり、生活習慣の乱れ等につながる心配がある。	・家庭学習が今後も定着できるように効果的な学習方法や見通しを持ちやすい学習計画の立て方を提示する。 ・テスト学習計画表等にメディア接触時間も記入し、使用実態の自覚をもたせる。また、メディア学習については、生徒だけではなく、保護者の理解、協力が重要であり、それらを得るための機会を設ける。
2年	授業改善に関わる事項	○担任の学級経営の成果として自分の考えを発表しても否定されない、風通しのよい人間関係が形成されている。また、様々な教科での授業改善により授業の中で生徒の発言の場が保障されるようになっている。 ●授業の中で、グループでの調べ学習や小グループでの話し合い活動を行っているという生徒の意識が、県平均よりも低い。	・現在の学級の雰囲気や人間関係を大切にしながら、各教科と連携して調べ学習や、話し合い活動を積極的に取り入れた学習の機会をさらに増やしていきたい。特に、学校図書館の利用に対する生徒の期待が非常に高いことを利用した学習課題を設定していきたいと考える。
	家庭学習に関わる事項	○担任の粘り強い支援のもと、家庭での課題学習の提出率も上がり、それにつれて、家庭での学習時間も増加した点は大きな成果である。また、読書好きな生徒が育っており、読書時間が長いと携帯電話等への接触時間が県平均より短い。 ●家庭学習に取り組もうという姿勢はできつつあるが、まだ「やらされ感」が残っている。そのため、課題学習に取り組むことが自分の学びの復習につながっていると実感できている生徒が全体の4割程度しかない。	・課題学習や宿題に取り組む姿勢を育てる支援は継続しながら、生徒一人一人が自己の課題に向かって主体的に家庭学習に取り組んでいけるような意欲づけに取り組む。そのための対策として、メンター制度を利用した個別指導の充実、学級活動等を通したキャリア教育の充実の2点に重点をおいて取り組む。

平成31年2月15日

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

